静岡陸協会報

第11号（2011年9月28日発行）

静岡陸上競技協会

〒420-8508
静岡市葵区鷹匠1-14-31
吉野寿ビル2F
TEL・FAX　054-253-9801

新会長就任のご挨拶

静岡陸上競技協会会長
鈴木　修

会員の皆様の御推挙により本年四月から静岡陸上競技協会・会長に就任致しました鈴木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この度の「東日本大震災」により、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災者の皆様方に謹んでお見舞い申し上げます。

過日、エコパスタジアム（袋井）で開催されました「第27回静岡国際陸上競技会」の会場に於いて、日本陸上競技連盟の呼びかけにより被災地への募金活動を行い、来場いただきました大勢の皆さんからご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

さて、本協会は一九四六年発足し、これまで六十五年の歴史ある協会でございます。

新年度を迎え諸先輩が築いてこられました、陸上競技の振興、普及、及び各種諸事業を更に発展させてまいりたいと考えております。そのためには、本県は、東部、中部、西部と東西に長く地域により特徴のある県でありますので、和田理事長を中心に各支部の理事長と情報交換を密にし、地域のバランスを考えた協会運営に取り組み、組織の活性化、諸事業の発展に努めてまいりますので、各種大会の運営に携わっていただいておられる審判員の皆様を始め、関係者及び会員の皆様方の倍旧のご支援とご協力をお願い申し上げます。

本協会は一般財団法人化に向けて準備を進めており、法人化することで協会の主体性、組織、規定、規約の充実、情報の透明性が図られ充実した協会運営ができるものと期待しております。

経済環境の大変厳しい状況が続いており、日本スポーツ界を取り巻く環境も大きく変化いたしております。本協会がこれまでの諸事業を更に推進し発展と充実を目指していく為には、今までと同じような活動や考え方ではスポーツ振興は難しい状況であります。今後は透明性のある財源の確保と予算管理、組織作りが必要不可欠となってまいります。

国レベルでは、本年六月二十四日に「スポーツ基本法」が成立されました。スポーツ基本法とは、国のスポーツ振興の根幹をなす法律で、国や地方公共団体の責務などが明記され新たに「スポーツ庁」設置の検討も盛り込まれております。「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」とし、これまでにはなかった権利規定が記されました。また、地域スポーツの中から優秀なスポーツ選手が生まれ、その選手が地域に還元する「好循環」がスポーツの発展に繋がるものとしております。スポーツ団体には益々、運営の透明性が求められてくる状況であります。

私が会長に就任させていただいた四月からは、浜松の四ツ池運動公園陸上競技場で開催された競技会をはじめ、五月の袋井・エコパスタジアムで開催された静岡国際陸上競技大会、七月の草薙運動公園陸上競技場で開催された静岡県陸上競技選手権大会の会場・運営・施設を拝見させて頂きました。

各競技場では大勢の審判員の方々が休日（土・日・祝祭日）の大会開催日には、朝早くから夜遅くまでボランティアで競技場にお越しいただき、スポーツ振興と青少年の競技力強化、育成と教育にご尽力頂いており、心より感謝を申し上げます。

県内には大勢の熱心な指導者、先生方がいらっしゃいます。これまで本県のスポーツ界を引っ張ってこられたのは学校の部活動での教育、指導を行ってこられた先生方、地域での指導者であります。皆さんの日頃の熱心な指導と熱意に少しでもお役に立てるよう充実した環境と体制づくりに努めたいと考えております。

また、「陸上王国静岡」の再建を目指すには選手の強化・育成が不可欠です。本県で育った選手が国内はもとよりアジア・世界で活躍できる環境整備・施設の充実に努めてまいりたいと考えております。

加盟団体をはじめ関係機関・団体との連携と協力をより一層密にして、会員の皆様のご協力とご支援をいただきながら、皆様方と力を合わせて各種事業を推進し、スポーツの振興に努めて参りますので、皆様方のより一層のお力添えをお願い申し上げます。

平成二十三年度 前期報告

理事長　和田隆保

平成二十一年四月より二年の理事長の任期を無事終えることができました。会員への皆様のご理解ご協力のお陰です。ありがとうございました。引き続き理事長を勤めさせて頂きますが、今まで同様よろしくお願い致します。

平成二十三年度は会長が交代されるという大きなでき事から始まりました。斉藤斗志二前会長には昭和六十二年から二十四年間会長として勤められ、数多くの全国規模の大会を開催する等の大きな功績を残されました。永年のご労苦に心より御礼申し上げます。鈴木修新会長はご存知のようにスズキ株式会社の会長兼社長であります。陸上競技をよく理解下さっており、これまでも多くのご支援を頂きました。高い見識と強い指導力によりこれからの協会運営、発展にご指導ご鞭撻を賜りたいと存じます。

本年は第十三回世界陸上競技選手権大会（韓国、大邱）開催の年であり、その他多くの国際大会も予定されております。先日、神戸市で開催された第十九回アジア陸上選手権には本県より5名の選手が出場し、槍投の村上幸史君（スズキ浜松AC）が自己記録で優勝した外、飯塚翔太君（中大）が二〇〇mで四位、武田毅君（スズキ浜松AC）が三〇〇〇mSC、鈴木崇文君（ミズノ）が棒高跳でそれぞれ五位入賞を果たしました。七月六日より開催の第七回世界ユース選手権（仏・リール）には選手、コーチ四名が出場し、小池輝君（浜松市立高）が五位に入賞しました。初めての海外遠征での入賞。今後の活躍が楽しみです。八月開催の世界選手権には村上幸史（槍投）、右代啓祐（十種競技）、海老原有希（槍投）のスズキ浜松ACの3選手の出場が決定しました。日本代表としての活躍を祈ります。また村上選手には前回大会に続いてのメダル獲得を期待します。同じく八月中国で開催のユニバーシアード競技大会には飯塚翔太君（中大）が二〇〇m、笹瀬弘樹君（早大）が棒高跳に出場します。笹瀬君は昨年の国体で大怪我をしました。それを克服しての出場です。そして四月十七日のロンドンマラソンでマラソン初出場の松岡範子さん（スズキ浜松AC）が2時間26分54秒でゴールした事も特筆すべき事です。静岡長距離強化の起爆剤になってくれたらと思います。

さて、四月から七月までの主催、主管競技会ですが、四月三日に予定していました日本平桜マラソンは三月十一日に発生しました東日本大震災を考慮して中止といたしました。来年は盛大な大会を期待します。その他予定した競技会はすべて実施致しました。主なものについては、五月三日第二十七回静岡国際陸上を本年もエコパで開催し、昨年同様一万五千人を越す観衆を集め、新会長のあいさつで始まった競技会は盛況なものでした。大震災の影響で予定した外国人の参加が大幅に減りましたが、日本のトップアスリートの活躍で世界選手権A標準突破男子3名、B標準突破男子2名女子1名、大会新記録2と成果のある大会となりました。五月二十七日より同じエコパで高校総体が行われ、学校対抗では男子富士市立高、女子浜松市立高が優勝しました。本年の東海高校総体は静岡が開催県であり、六月十七日より三日間本協会の主管によりエコパで開催しました。天候の大きな崩れもなく、競技役員にあたてられた会員皆様の円滑な運営と確実な審判により無事終了することができました。東海総体の結果、今年は99名という多数の高校生が岩手県でのインターハイに駒を進めます。昨年以上の好成績を期待します。六月二十七日第二十七回小学生交流大会（草薙）では、今年も将来が楽しみな元気な競技を数多く見せてくれました。全国大会でも明るく元気にやって欲しいと思います。七月九～十日、第六十六回県陸上競技選手権は草薙で開催しました。今年はベテランの活躍が印象に残りました。また多くの大学生が参加するようになったのは大変うれしいことです。女子三〇〇〇SCも初めて実施されました。第二日目には各種の表彰が行われ、特別功労者表彰、斉藤斗志二氏、永年勤続功労者表彰、仁科仁郎、加藤崧、中西基の各氏をはじめ、功労者表彰8名、日本記録樹立表彰3名、優秀選手表彰22名に会長より賞状、記念品が贈呈されました。なお、10名の日本陸連S級審判委嘱と日本陸連平成二十二年度中学生高校生優秀選手章の授与も併せて行いました。十六～十七日には中学通信陸上を中学総体も兼ねて草薙で実施しました。全日本中学の予選会にもなっており、二日にエコパで行った中学選抜大会と併せて50余名の選手が標準記録突破しました。昨年より若干少ないようですが、力のある選手も多数いますので全日中での健闘を祈ります。また、総体では男女とも浜松天竜中が他を大きく離して優勝しました。これまでの弛みない努力に敬意を表します。また、他校の指導者、選手には一層の奮起を望みます、ここ一、二年少し元気が出てきた静岡陸上です。これからも精進を怠らず上を目指して欲しいものです。

一昨年より懸案となっております陸協法人化ですが、年内には何とか目処をつけ、今年度中に申請したいと思っております。

最後に訃報があります。平成十七年から昨年まで審判委員長を勤められ、陸連JTOとしても活躍された草野康二氏が去る五月二十五日逝去されました。静岡陸上のためにこれからも力をお借りしたいと考えておりましたが誠に残念でなりません。今までのご貢献に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十三～二十四年度 静岡陸上競技協会役員

会長　鈴木修
副会長　勝又瑛逸　河合久光　山下昌彦　亀山敏郎
理事長　★和田隆保
副理事長　★望月紘一（東部理事長）　★大塩正則（中部理事長）　★鳥井啓市（西部理事長）
東海陸協理事　和田隆保　望月紘一　★松村吉郎

常任理事
★稲葉勝巳★綾部信明
★佐藤常保★村松義明
★筒井計臣★神谷晃尚
理事
福良勝己　西尾　誠
安部六郎　小林一幸
永井豊二　眞下達雄
川口雅司　岩田佳久
矢邉　進　瀧　義弘
岩本穣兒　片平正廣
原田洋一郎　小林　昇
堀ノ内　大　豊田博幸
末高義美　石野吟策
山下眞里　外波山雅章
荒川　功　松井清和
新間一夫　池田　毅
森戸定尾　石山睦巳
鈴木公哉
島寄節子
渡辺辰彦
伊藤　宏
望月勇志
鳥居俊秀
高橋　正
杉山金吾
林　昭仙
石上雅宏
金澤成光

会長指名理事
大体連理事
高体連理事
中体連理事
マスターズ理事
ハンデキャップ理事
監事
松村吉郎
瀧　義弘

事務局
事務局長
次長兼会計
石野吟策

専門委員会
総務委員長
審判委員長
普及委員長
情報システム委員長
施設委員長
井出幸夫
豊田博幸
三枝宣男
久保田金也
永田勝久
競技委員長
強化委員長
杉井將彦
記録委員長
赤堀順一
広報委員長
橋本美智夫
スポーツ科学委員長
高田　均

（敬称略　★印は常任理事）
（事務局）

県陸上略史(11)
駅伝都道府県対抗優勝

参与　伊藤英一

現在開催されている都道府県対抗駅伝は女子が京都で昭和五十七年（一九八二）が第一回、男子は広島で平成七年（一九九五）に開催され、ともに中学生、高校生、一般社会人で編成され、出身地を基盤にした「ふるさと選手」の起用等もあり各都道府県陸上競技協会は国体同様その成績は年度の重要課題として取り組んでいる。

この都道府県の歴史を調べてみると日本陸上競技連盟七〇周年史（一九九五年発刊）に最初は太平洋戦争の終戦の次の年即ち昭和二十一年十月二十七日～二十八日神奈川県鎌倉市で四区間五十二・八Kで昭和四十二年まで二十二回も続けられた。

第一回大会には、北海道、青森、群馬、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、広島、島根、高知の十二都道府県の参加であった。参加各道府県は戦後の陸上再建が早かったからである。

本県の選手は次の者である。
一区＝渡辺利雄（井出鉄工）
二区＝仲田静夫（庵原教）
三区＝杉山　繁（清水教）
四区＝風間　実（清水中教）

成績は五位入賞で、賞品は花束であったと記録されている。

次に行われた都道府県対抗は昭和三十年代に入り、読売新聞社と報知新聞社が東京本社―大阪本社間東海道使用の駅伝を計画、皇太子殿下（現天皇）の御成婚記念行事として企画、第一回を昭和三十四年三月二十四日～二十九日六日間東京スタート大阪ゴールで五十六区間、第二回は大阪城スタートで東京ゴールとした。三回以降は十一月とし東京→大阪とし大会は七回で交通事情の悪化で中止された。（一九六四年＝昭和三十九年）

本県は六一一Kのうち一八〇Kの東海道本県を走るので勝又五郎理事長や和田明日本陸連強化コーチ等毎回参加で成績を競った。

ハイライトは第六回大会で優勝したことである。

選手団は次の者であった。

監督＝浅倉　茂、中田豊七、加藤正之助
マネージャー＝小林　進、上光園八
選手＝福山俊文　川村久雄　赤堀昭雄
杉本偉人　野呂　武　荒川　功
佐藤　清　鈴木勝昭　戸田平三郎
井坂末雄　三沢征洋　佐川正治
山岡　博　堀野耕一　貞石昭雄
前田秋夫　冨満一夫　土屋建彦

記録＝三十四時間十五分四十三秒

この偉業は当時高く評価され、県体育協会体育章委員会でも討議されたが体育章は個人表彰であるので当時のインターハイ等の国体表彰はなかったので残念に思う。（斉藤斗志二会長になり団体表彰が追加された。）

追　記

この原稿になったのは次の事由によるものである。焼津の服部正勝審判員が焼津市石脇の小林進審判委員会中部委員が健康（身体障害者）上の事由により特別老人ホームに入居するので第六回大会の優勝盾＝報知新聞社を大会時に届けてくれたからである。（マネージャーであったから保管して下さったのである。）

小林進氏は国鉄職員として昭和二十九年＝一九五四年より佐藤隆審判部長のもとで審判事務を担当、今日まで五十七年間協会のため尽力されたのである。

静岡・県選手権陸上競技大会
兼
東海選手権大会県予選会
兼
国民体育大会県予選会

七月九、十日静岡草薙陸上競技場で、第六十六回県選手権大会を開催した。主催・主管は当協会、協賛・後援はミズノ株式会社、県教育委員会・県体育協会のご協力を願っている。

一日目、男女二十種目・二日目、男女二十二種目の決勝を行った。男子二〇〇mで、富士市立高校の渡邉悟選手が21秒40の記録で高校生チャンピオン（13年ぶり）となった。女子一〇〇mでは青山学院大学三年の伴野里緒選手が追い風参考ではあるが（同種目参加選手43名中）ただ一人11秒台をマークし、中身の濃い二日間の大会であった。なお東海選手権には決勝上位六位入賞者が出場権を得た。また、記録の詳細は静岡陸協ホームページで紹介している。

静岡陸協ではその他大会においても、逐一各メディアに資料提供し、新聞掲載及びTV（ニュース）放映のご協力を載いている。

平成二十三年度
県陸上競技選手権者・チーム

男子一〇〇m　川瀬聡一朗（イサシT・C）10秒32（追風2.6m）
男子二〇〇m　渡邉　悟（富士市立高）21秒40
男子四〇〇m　伊堂　駿（東海大）47秒97
男子八〇〇m　杉田祐弥（浜松大）1分53秒59
男子一五〇〇m　中村泰之（スズキ浜松AC）3分53秒49
男子五〇〇m　中村泰之（スズキ浜松AC）14分32秒92
男子一〇〇〇m　中川　学（Honda—RC）32分26秒17
男子一一〇mH　佐野　成（静岡大）14秒25（追風2.5m）
男子四〇〇mH　天野裕太（至学館大）51秒29
男子三〇〇〇mSC　三田訓利（三島北高）9分34秒59
男子五〇〇〇mW　山口貴史（東京学芸大院）23分11秒97
男子四×一〇〇mR　水村優己　滝田慎一　渡邉　悟　久松　巧（富士市立高）41秒26
男子四×四〇〇mR　近藤祐市　望月龍之介　白川龍之介　近松亮（東海大翔洋高A）3分18秒14
男子走高跳　小野田学登（順天堂大学）2m12
男子棒高跳　鈴木惇也（日本体育大学）5m20
男子走幅跳　松原　奨（東海大翔洋高）7m58（追風2.8m）公認7m46（追風0.8m）
男子三段跳　山崎幸太（中央大）16m04（追風3.9m）
男子砲丸投　鈴木郷史（中央大）14m18
男子円盤投　中村一裕（中央大）44m70
男子ハンマー投　高村竜麻（中央大）54m14
男子やり投　岡澤寿明（静岡陸協）64m96
女子一〇〇m　伴野里緒（青山学院大）12秒09（追風1.5m）
女子二〇〇m　建部カオリ（浜松市立高）25秒13
女子四〇〇m　鈴木啓予（国際武道大）58秒45
女子八〇〇m　松本奈菜子（清水ミズノSC）2分12秒02
女子一五〇〇m　榊原美希（浜北西高）4分30秒69
女子五〇〇〇m　松岡範子（スズキ浜松AC）16分35秒41
女子一〇〇〇〇m　溝上　優（ユタカ技研）35分58秒24
女子一〇〇mH　松下小織（創進浜松AC）14秒30（追風1.5m）
女子四〇〇mH　山崎郁美（福岡大）1分01秒48
女子三〇〇〇mSC　柴田美帆（ユタカ技研）11分40秒10
女子五〇〇〇mW　野田泰代（早稲田大）24分47秒97
女子四×一〇〇mR　鈴木海景　杉浦はる香　加藤帆波　建部カオリ（浜松市立高）47秒57
女子四×四〇〇mR　伊藤千奈津　杉浦はる香　吉本有沙　建部カオリ（浜松市立高）3分55秒22
女子走幅跳　松下小織（創進浜松AC）1m65
女子棒高跳　青島綾子（日本体育大）3m70
女子走幅跳　渡邉千洋（静岡陸協）6m21（追風4.3m）公認6m02（追風1.3m）
女子三段跳　鈴木佑実（浜松大平台高）11m66（追風1.1m）
女子砲丸投　竹山知佳（中央大）13m95
女子円盤投　竹山知佳（中央大）41m08
女子ハンマー投　武川美香（スズキ浜松AC）54m72
女子やり投　吉野菜美（静岡陸協）45m26

（報道）

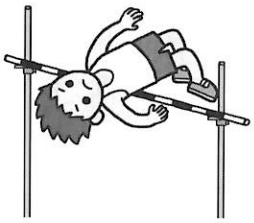
静岡国際陸上競技大会
〈日本グランプリ第四戦〉

第十七回静岡国際陸上・日本グランプリ第四戦は、五月三日、静岡エコパスタジアム（袋井市）で開催した。今回の大会は韓国世界陸上代表選手選考会、神戸アジア陸上競技選手権・中国ユニバーシャド代表選考会も兼ねている。大会は海外七ヵ国から十三人・日本から四十六人の選手を招き熱い戦いが繰りひろげられた。日本選手では、人気の女子二〇〇mの福島千里（北海道ハイテクAC）選手が23秒13で安定した走りを披露し優勝。男子同種目では本県出身の飯塚翔太（藤枝明誠高・中央大学）選手が予選二組に登場し20秒75で一位通過、決勝では二位入賞を果たした。またグランプリ外種目として、女子三〇〇〇mに出場した谷奈美（ユニバーサルエンターテイメント・沼津西高）選手は終始先頭をキープし自己記録5秒を上まわる9分13秒02で優勝した。

その他、四月の静岡リレーカーニバル大会上位16チーム小・中学生と男子一五〇〇m・女子八〇〇mの選手（各16人）も招待し、観衆一万五千人の声援を受け大会を盛り上げた。（報道）

日本選手選混成競技
男子十種競技、日本新（十八年ぶり）
右代啓祐選手（スズキ浜松AC）

六月四日～五日、神奈川・川崎（等々陸上競技場）で、今夏世界選手権（韓国・大邱）代表選考会を兼ねた日本選手権混成競技大会が開かれた。本県、スズキ浜松AC右代啓祐選手が男子十種競技において八〇七六点をマーク、十八年ぶりに日本新記録（世界標準B突破）達成、二連覇を成し遂げた。これも冬季の沖縄合宿の成果が実を結び、ロンドン五輪の舞台への期待が高まる。（報道）



県民スポーツ・レクリエーション祭
〈第二十四回全国スポレク祭選考会〉
〈静岡マスターズ混成競技記録会〉

五月二十三日（日）静岡草薙陸上競技場において、男女二十七種目、約四〇〇人が参加して行われた。天候は曇り空であったが、今回男子最高年齢は八十七歳の遠藤隆（静岡）さん、女子は七十四歳の柏原テルエ（静岡）さんでした。

また混成競技記録会では日本新に男子では岡山の村井精一（二六七九点）さん八十五歳・静岡の寺尾心一（三二二六点）さん八〇歳・静岡の外山輝行（二八九四点）さん五十八歳、女子では静岡の鈴木美貴（二九四一点）さんら四人が新記録を出し、大会を盛り上げた。（報道）

小学生交流陸上県選考会

六月十二日、第十七回全国小学生陸上競技交流大会選考会兼第二十八回東海小学生リレー競走大会県選考会が草薙陸上競技場で開かれた。一位が全国出場権を得る十四種目のうち、五・六年生四〇〇mリレーは、男子浜松陸上Aチーム（51秒71）、女子裾野市陸上教室チームが（53秒03）でそれぞれ優勝した。東海大会選考種目、男女混合、五年生以下四〇〇mリレーは、一位は浜松陸上Aチーム（55秒86）、二位は三島陸上Aチーム（57秒09）、三位は静岡葵ACチーム（57秒62）が出場権を得た。（報道）

県中学選抜陸上競技大会

七月二日、梅雨の合宿の合間、午前十一時、気温三十二度の静岡エコパスタジアム。第二十六回県中学選抜陸上競技大会兼第六十六回国体県予選会が開かれた。男女二十種目の決勝を行ない、静岡・清水四中の松本奈菜子（三年）選手が女子八〇〇ｍで県中学新記録（２分９秒62）をマークし頂点にたった。また浜松天竜中の天城帆乃香選手（二年）は女子一〇〇ｍ・走り幅跳びの二種目で優勝。

今回の大会では県下一六六校八四一人が参加し、標準記録突破者は男女四十七人（延べ人数）が全国大会への出場権を得た。（報道）

東海高校総体・陸上競技大会

今年は四年に一度の東海高校総体が六月二十七・二十九日、エコパスタジアムで行われた。特に男子走り高跳びは、県勢が上位を占めた。優勝は浜松市立高校の平龍彦（２ｍ07）選手・二位は同校の小池輝（２ｍ04）選手、三位は伊東高の鈴木真悟（１ｍ98）選手。

本県、男子高校対抗成績は、総合第二位・浜松市立高校、第四位・富士市立高校、トラックの部第二位・富士市立高校、フィールドの部第一位・浜松市立高校、女子学校対抗成績は、総合第一位・浜松市立高校、トラックの部第二位・浜松市立高校、フィールドの部第一位・磐田東高校、第二位・浜松市立高校。（報道）

学生の皆さんありがとう

静岡陸協　竹川三郎

第六十回、東海地区国立大学陸上競技大会が六月二十五日静岡草薙陸上競技場で開催されました。この大会は二年連続本県が会場となり、県陸協は運営協力にあたった。当日は朝「おはようございます」と元気に爽やかな声で学生から挨拶された。「一年ぶりですね。お元気でしたか」と、昨年同大会に参加した愛知教育大、二人の学生（表彰補助役員）でした。おそらくプログラムを見て挨拶に来てくれたと思う。特に今大会は補助員（高校生）なしで運営されたが、大会に必要な用器具の準備（ハードルや走り幅跳びのピットの砂ならし）等、協会審判員の指示に従いすべて各大学の学生諸君らの協力によって進められた。開会式・競技中の表彰補助、閉会式と心づかい、気づかいをし、タイム・テーブルの予定どおり進行しました。

競技種目では男子八〇〇ｍ（三重大・長谷選手）大会新記録、棒高跳び（愛知教育大・安田選手、三重大・高橋選手）大会タイ記録を猛暑の中で競技に花を添え、大会の合間、今回は学生補助役員のおかげで競技を見ることもでき、テキパキとした若いエネルギーを肌で感じた。競技役員として心に残る大会でもあった。またこれからの陸上界を一人でも多くの学生たちが携わってくれることを期待し、心からエールをおくりたい。

県市町駅伝実行委員会開催

第十二回、しずおか市町対抗駅伝競走大会、第一回実行委員会が五月十一日静岡新聞放送会館で開かれた。

今年の大会は十二月三日実施する。今回は全県二十三市・十二町から三十九チームが出場する。会議では駅伝事務所から要綱の一部改訂や五区、十一区の一部コース変更（新東名建設工事に伴い）の説明があった。

また趣旨に幅広い選手発掘・育成、強化や各市町の活性化を柱とした。

クラブチーム紹介

千代田AC〈アスリートクラブ〉

指導者　久能　浩

「未見の我に会いに行こう」これが千代田ACの合言葉です。陸上競技を通じて、自分自身を強く逞しく変身させよう、自信みなぎるアスリートになった自分自身に会いに行こう、そんな願いがこの言葉に込められています。

千代田ACは静岡市の千代田小学校区を母体としたスポーツ少年団です。千代田小学校と近隣の小学校からも陸上競技を志す選手が集まって、練習をしています。練習は大会の準備活動であるという位置づけをし、どの団員も大会に出場することで「自分作り」をしていこうという趣旨で活動しています。

平成十一年の四月に発足した「千代田アスリートクラブ」は今年で十三年の歴史を数えることができました。週三回の練習をコツコツつ積み上げてげてきた結果、毎年、力のある選手が育ち、小学生の陸上競技という文化、が地区に根付いてきたように思えます。歴史は伝統を作ります。先輩から後輩たちへ、見える形で（練習にのぞむ姿勢や体の動かし方）、良い伝統が受け継がれています。選手たちが、自然と良い動きを覚えることが出来るのは、伝統の力のおかげだと感じています。

練習では、陸上競技に必要だと思われる動きを何度も繰り返すことで、良い動きを身につけ磨きをかけていくことに力を入れています。種目を絞らずに全種目をこなせる陸上選手になることをポリシーに短距離走・中長距離走・跳躍・投擲・ハードル走など、どの種目のもチャレンジしています。

本年度、三名の六年生の選手が全国大会を決めました。走幅跳で小野田吏紗さん。八〇mハードルで篠崎真綾さん。走高跳で稲本菜月さん。この三名をはじめ団員たちの共通することは、陸上競技が好きで好きで仕方がない、まさに「陸上の虫」といってよいほど練習や試合の打ち込んできた、ということです。厳しくても楽しい、そんな練習を積み上げて自己ベストを更新する。その繰り返しで自信をつけた選手たちが全国大会出場を決めたことは、千代田ACの関わる全ての人たちの喜びになりました。

卒団した選手の中には、全国大会で活躍する選手が育ってきました。八〇〇mの笹本絢さん、走幅跳の松原奨君、一〇〇mハードルの石川梓さん、走幅跳の海野結さん、走幅跳の鈴木遼太君、一〇〇mハードルの高橋砂里奈さんの六名は新しい扉を開け千代田ACの歩みを支えてきてくれました。

また市町対抗駅伝の静岡代表として、笹本和人君、外岡大輝君、柴田花凛さん、白鳥翔太君、奥村広大君、小澤歩美さん、高橋和佳奈さん、白井雅人君、奥村大地君、長倉謙伸君、松下百花さん、鈴木颯夏さん、加藤詩帆加さんの十三名の選手たちが選考会を勝ち抜いて出場してきました。

今後も、先輩たちに負けないような成績が出せるよう、日々の練習を大切にしながら力を積み上げていきたいと思っています。千代田ACの「陸上の虫」たちが元気よく競技場を走りまわる姿を応援して頂きたいと思います。

全国優勝

小野田　史紗さん

今夏、全国小学生交流陸上大会において女子六年走り幅跳び4m96で全国第一位となった。（千代田AC所属）

オリンピックのマラソンを救ったトレーニング法③

東部陸協　澤田幸作

平成三年、全国高校総体の開催が、静岡県と決まり、県高校陸上長距離のレベルアップを希って、平成二年の春、当時浜松商業高校の山下先生（顧問）に電話を入れて了承を得て、出掛け、この早朝有酸素トレーニングを勧める意味もあって、東京オリンピック、マラソン銅メダリスト、円谷幸吉選手の育成体験談を語った。十数名の長距離部員達は、真摯な態度で真剣に耳を傾けていた。この時点で既に、当校にも、質、量は不明であったが、この早朝トレーニングは普及されており、実行されておったようである。それから三年後、浜松商業高校は、全国高校駅伝で準優勝をされた。また、この二年後の一五〇〇m、（3分47秒55）、五〇〇〇m（13分55秒54）、一〇〇〇〇m（28分43秒9）の県高校記録を樹立され、当時の全国高校、陸上、中・長距離のトップレベルに到達された。それから、幾何もなく私と同姓の沢田和男氏が、全国高校総体陸上で、総合優勝されたとのことで、草薙に講演に見えられた。この時、特に、早朝トレーニングを強調されたの

で、最後の質疑応答の際、私が、「この早朝トレーニングは、朝食の前に実施するのか朝食後に実施するのか。」と質問したところ、氏は「朝食をしっかり摂ってから実施しなさい。」との答が返ってきた。この時、静岡県校の長距離のレベルは凋落するなと直感した。なお、科学的トレーニングによって犠牲者が、発生しないかという心配もあった。エチオピアの女子長距離選手が、この科学的トレーニング実施中に命を落としている。科学的トレーニングを甘く見ると危険である。陸上長距離の神様に近い存在で、尊敬した、村社講平先生から、日本陸上長距離選手の、科学的トレーニング一辺倒には、問題があるとは、上記のような意味が含まれるものと解釈した。当時、科学的トレーニングと云われたインターバルトレーニングは、ドイツの医学博士、ラインデル氏と、トレーナーのゲルシュラー氏が、スキーのクロスカントリー選手の心臓が発達しているのに着目し、スキーを履いての、山登り（負荷）おり（休）から、黄金の休みを発見した。負担をかけて心臓の脈拍を一分間、一八〇まで上げ、半休息で、一二〇近くまで下げ、再び負担をかける。この半休息は、四十五秒から九十秒が効果的と言われた。五十年前の事で、私もドイツのインターバル、トレーニング権威者、二人から、日本陸連で講習を受けた一人である。このインターバルトレーニングを実施する時、一把ひとからめで、一つのグループ（強、弱混合）で走らせていないか、各選手の実力の差でグループ分けをして行うべきである。地元の富士岡中学の駅伝部の練習をよく目にしたが、萩倉監督は、各選手の実力に応じて二～三ずつ分け実施するので、理想的なやり方と感心した。さて、最後に早朝有酸素トレーニング実施の注意事項を挙げてみたい。前夜の夕食を、しっかり摂取すること。私が五十五歳の時世界ベテランズ選手権に出場しようと、少し増えた体重を落とそうとして、夕飯を減らして毎朝六十分走ったところ、肝臓を悪化させ、伊東の名医、肝臓先生のお世話になった事がある。二つ目にグループで走るな、各人のレベルや、肉体条件が違うので、可能な限り、単独で走るべきである。先に述べた、有森有子選手にも、オリンピック前、距離を走っていたので、六十分時間走ることを勧めた。距離を目標にすると、早く走り終わろうと調子が出るとスピードをあげすぎる憾がある。指導者によっては遅く、トロ・トロ走っていると、一律、一キロ何分と時間を決めて走らせているが、無機質トレーニングになりやすいので注意が必要である。三つめに、過ぎたるは、及ばざるが如し。オリンピックで金メダルを獲得した高橋尚子選手が引退後、テレビの、バラエティ番組に出演し、毎朝二十キロから、二十五キロ、多いときは、五十キロ走っていたと話していたが、これは、小出監督から離れて、一人で、マラソントレーニングをやっていた頃と思うが、朝、起きると、胃の中はカラッポ、長い距離を走ると肝臓に負担がかかり、彼女の晩年の不調の要因の一つに、早朝トレーニングのやり過ぎに、あったのではないかと。さらに、このトレーニングの効果を倍増し、科学的トレーニングの、耐え得る体力をつけるためにオールラウンドの体力倍増を図る事を切望する。さらに静岡県内、高校生の中・長距離の躍進を祈念してやまない。

平成二十三年度
静岡陸上競技協会顕彰受賞者

○特別功労者表彰

・斉藤斗志二

○永年勤続功労者表彰

・加藤　崧
・仁科　仁郎
・中西　基

○功労者表彰

・秋山　二郎　東部　沼津市
・室伏　剛　東部　駿東郡小山町
・黒田　宏　東部　賀茂郡南伊豆町
・村上　馨　中部　静岡市
・増田　忠雄　中部　島田市
・橋本美智夫　中部　静岡市
・森下　哲治　西部　周智郡森町
・大石　富之　西部　島田市

おめでとうございます

○日本記録樹立者表彰

・日本記録記念章　海老原有希
11・25　広州アジア大会
女子やり投　61m56　優勝
・中学日本記録記念章　日吉克美
全日本中学　8・23　男子一〇〇m
10秒64　優勝
8・24　男子二〇〇m　21秒18優勝
・中学日本記録記念章　建部カオリ
エコパトラックゲームズ　女子四〇〇m　56秒70　優勝

○優秀選手表彰

・武田　毅　スズキ浜松AC　6・5
日本選手権
男子三〇〇〇mSC　8分47秒61　優勝
・伊藤　卓　静岡代表　10・5国民大会
男子四×一〇〇mR　39秒83　優勝
県新
・高瀬　慧　静岡代表　10・5国民大会
男子四×一〇〇mR　39秒83　優勝
県新
・鈴木崇文　チームミズノAC　6・5
日本選手男子棒高跳　5m50　優勝
・鈴木義啓　スズキ浜松AC　6・4
日本選手権　男子三段跳　16m17　優勝
・鈴木那弥　静岡中央高校　8・14全国
高校定通制　男子一〇〇m11秒29　優勝
8・15　男子二〇〇m23秒30　優勝
・横山直広　浜松西高校　10・15日本ユ
ース　男子四〇〇m　47秒62　優勝
大会新
・滝田慎一・渡邉　悟・矢川喬平・久松
巧　吉原商業高校　10・15　日本ユース　男子四×一〇〇mR　41秒26　優勝　大会新
・鈴木海景・菅　麻衣・名倉彩夏・滝井
亜由美　浜松市立高校　7・31　全国
高校総体　女子四×一〇〇mR　46秒
55　優勝
・大谷広樹　静岡東中学校　10・23　ジ
ュニアオリンピック　男子B一五〇〇
m　4分07秒29　優勝

・松本奈菜子　清水第四中学校　10・23
ジュニアオリンピック　女子B一五〇〇m　4分29秒44　優勝
・澤入　想・・樽林万由子・大石千聖・内藤　千紘・島田　美穂　御殿場富士岡中学校　12・19　全国中学校女子駅伝　優勝

○優秀指導者
（東）小池一男・安藤昌史
（中）鳥井　潔・小長谷忍
（西）笹瀬正樹・小嶋久典・石山睦巳

○精　励　者
（東）井草正男・佐藤　武・菅沼博明・鈴木邦彦・芹沢ルリヤ・竹川滋子・塚本正樹・野中基行・原　栄一・深沢健一・和田陽治郎
（中）大石立美・小林満雄・杉山　忍・竹田利恵子・村田正春・山本康夫
（西）青島一弘・島﨑政則・庄内俊司・鈴木公哉・鈴木将夫

○精　勤　者
（東）秋田　勇・池田明由・内田文夫・勝又史博・工藤文法・野木　守・秀平教朗・山口憲司・渡井新一郎
（中）小川和美・笠井勇志・高田和明・中村哲治・野澤博文・望月裕子・森貴　司
（西）岡嶋記之・関上洋靖・長谷川克巳・平野隆久・松岡秀政・山口大和

○喜　寿
（東）石神四郎・高村良正・中西　基・古瀬久義
（中）藪崎定雄・森本　明・榛葉光男
（西）中村　修・土屋　淳一

○古　希
（東）勝又初夫・砂原　晋・土屋文弘・津布子一男・丸山博康・渡辺嘉六
（中）村松義明・西野忠男・佐藤常保・貞石昭雄・阿井定男
（西）小栗常夫・鈴木利久

○還　暦
（東）芦澤勝則・飯田又基人・井出幸夫・井本一広・大庭　武・梶　壽雄・小林　俊・長束幸惠・渡辺義治・原　成和
（中）村上　馨・小西啓仁・川端景規
（西）鈴木　薫・齋藤敏幸・川合勝一・鳥井啓市・村埜茂好・森下哲治・伊藤市夫・大石富之・小野利夫

○S級審判委嘱者
・植松　博　東部　富士市
・砂原　晋　東部　田方郡函南町
・長束　幸惠　東部　裾野市
・室伏　剛　東部　駿河郡小山町
・山下　蔵　東部　駿河郡小山町
・渡辺　徳一　東部　富士宮市
・大石　稔夫　中部　藤枝市
・杉村多果志　中部　島田市
・服部　正勝　中部　焼津市
・溝口美三男　西部　掛川市

○平成二十二年度
中学生・高校生優秀選手章
〔中学生〕
・日吉克実（修善寺中学）
全日本中学一〇〇m　10秒64　優勝（中学日本新記録）
二〇〇m　21秒18　優勝（中学日本新記録）
〔高校生〕
・松原　奨（東海大翔洋高校）
全国総体　走幅跳　7m74　優勝

（総務）

平成二十三年度　第一回
理事会・専門委員長会議開催

八月十三日、県体育協会大会義室に於いて、本年度第一回目の理事会及び専門委員長会議を開いた。議題は次のとおりである。
○第六十六回国民体育大会選手権選考について
○前年度強化委員会会計報告について
○各専門委員会報告
○その他

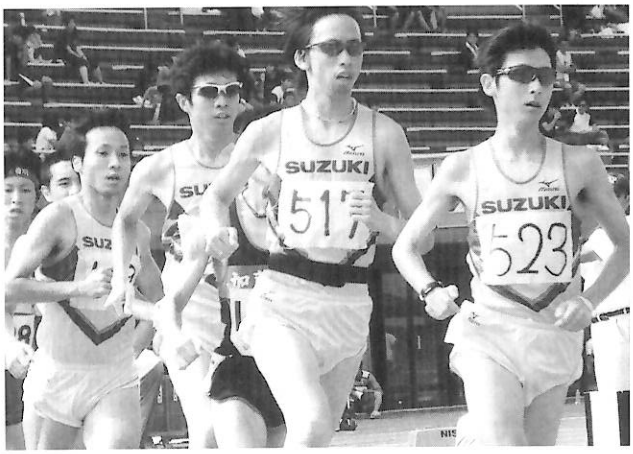
（広報）

訃　報

・日本陸上競技連盟ＪＴＯ
・静岡陸上競技協会審判委員長
草野康二（60才）儀
5月25日ご逝去されました。
これまでのご貢献に感謝し
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Photograph

○　静岡国際陸上
○　静岡県選手権
○　東海・県高校総体
○　県中学選抜・通信
○　県小学生交流



編集後記

四月以降、今年は特に異常気象とも言える暑さなのか、県陸協主催・主管の大会は順調に進んだ。今シーズン前半、それぞれの大会において、小学生・中学生・高校生・大学生・一般の各層の選手たちは、自己の目標に向かってレースに望んでいた。後半、十月の国体、新人戦等の活躍も期待したい。

（広報）

〔編　集〕
県陸協広報委員会・県陸協事務局
○橋本美智夫（編集・文責）
・水谷陽介（編集委員）
・片岡佳美（編集委員）
・矢邉　進　・内田光英
・亀山健士　・山口丈男
・松井清和　・田部井昭博
○写真（陸協報道　大多和・橋本）
（印刷・大日紙業㈱）